

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	940 保健衛生普及費	会計	02	国民健康保険事業特別会計(事業勘定)
		款	08	保健事業費
		項	02	保健事業費
基本 施策	07 老後の生活や低所得者の自立を支える	目	01	保健衛生普及費
		細目	498	保健衛生普及費
行革大綱の重点事項番号		細々目	01	保健衛生普及費
担当部署	コード	130600	担当者	22 - 9659
	名称	健康福祉部保険年金課	氏名	西島 美智子 連絡先 (内線) 2650

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	国民健康保険被保険者で人間ドックまたは脳ドックの受診者	※対象件数
成果(どうする)	病気の早期発見につながる。	
根拠法令・要綱等	国民健康保険法	
開始年度	平成	年度
終了年度	平成	年度
H22 事業内 容	下記の事業を行なう 人間ドック 630人(自己負担8,500円) 22年度より前立腺がん検診を同時実施(自己負担500円) 脳ドック 340人(自己負担9,000円) 医療費通知 年6回	
社会情勢 の変化等	22年度から脳ドック定数340名、人間ドック定数630名に変更をした。事業の一部が、特定健康診査等事業費に移行する。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 建設用地		1 運営主体	
2 建設面積 (延床面積)		委託先	
3 規模・構造		2 配置人員	人
4 総事業費	千円	3 年間運営費	千円
		4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
脳ドック受診者	人	目標	340	340	340	340
		実績	318	319		
人間ドック受診者	人	目標	630	630	630	630
		実績	322	498		

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
脳ドック申込者数/脳ドック募集者	%	脳ドック申込者数を分子とし、脳ドック募集者を分母として適用比率を指標とした。	目標	100	100	100	100
			実績	93.53	93.82		
人間ドック申込者数/人間ドック募集者	%	人間ドック申込者数を分子とし、人間ドック募集者を分母として適用比率を指標とした。	目標	100	100	100	100
			実績	51.11	79.04		

投入コスト	直接事業費計(A)	H21 決算	H22 決算	H23 当初予算	H24 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
Aの 財源 内訳	国庫支出金	22,869	26,530	31,569	31,569
	県支出金				
	地方債				
	その他	0	0		
	一般財源	22,869	26,530	31,569	31,569
事業投入人件費(B)		1.0人 7,200	1.0人 7,200	1.0人 7,200	1.0人 7,200
フルコスト(A)+(B)		30,069	33,730	38,769	38,769

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対応し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	○
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	○
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	○
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		この事業は、民間でも実施しているが費用面で大きく違い受診しやすくなっている。 人間ドックや脳ドックでの病気の早期発見は、被保険者の市民生活を守るうえで必要不可欠である。 また、国民健康保険会計としても医療費の軽減につながる事業の安定が図られる。
財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	○
	サービス水準や対象を見直す余地がある。	
達成度	当初設定した計画を 80%以上100%未満 実施している。	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
	予算の繰越の有無 無	脳ドックは、キャンセル者を把握し100%をめざす。人間ドックは、男性の受診率向上のため前立腺がん検診を同時実施とした。特定健診の検査項目見直しにより特定健診への移行を検討
	【予算の繰越がある場合、繰越の種類】	
効果性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
	【事業名】	
	受益者負担を求めることができる事業である。	○
	全体コストにおける負担構成は適正である。	○
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	伊賀市、名張市での受け入れ体制不可につき、市外医療機関受診者に対して償還払いの方法を検討中である。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいない 【詳細】 脳ドックは申込多数のため、キャンセル待ちの人がいる、キャンセルが出た場合は、次点者に受診案内をしている。脳ドック、簡易人間ドックとも、受診券送付者に受診漏れの無いよう広報により勧奨した。脳ドック市外医療機関受診等については引き続き検討する。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	西島 美智子
【方向性】	現状維持
事業の方向性	【理由】 人間ドック・脳ドックによる病気の早期発見の必要性は、多方面からも認められているところである。健康を守る保険者として加入者の健康増進につながる検診事業は、必要不可欠であると考える。
現時点における課題、その他	脳ドックの希望者が、毎年定員オーバーになっている現状から受診枠の拡大が課題であるが、名張市を含む伊賀管内の医療機関では現在の定員以上増やせない。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	脳ドック申込が毎年定員オーバーになっているが、受診率が100%とならないため、受診状況の把握に努める。市外医療機関受診等については引き続き検討する。